

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公

公表:令和6年2月20日

業所名 こぱんはうすさくら 松戸六高台教室

保護者等数(児童数)26

回収数13

割合50%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	12	1	0	0	とても清潔で広々していると思います。	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	12	0	0	1	困った時に良い相談相手になってくださっています。	
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	7	2	0	4		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	13	0	0	0		
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	13	0	0	0	いつも色々なプログラムがあり、親も楽しみです。	
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	3	1	8	現状はないと認識していますが、あっても良いのかなと思います。六実二小にも来年度から知的障害学級ができるそうなので、機会があればいいですね。	
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	13	0	0	0		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	13	0	0	0		
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13	0	0	0		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	2	1	7	参加したことがないので分かりません。今後は参加してみたいです。	
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	3	0	4	苦情が無いのでわからない	
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	12	0	0	1		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	12	0	0	1		
14 個人情報に十分注意しているか	12	1	0	0			
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	11	1	0	1		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	12	1	0	0		
満足度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	11	2	0	0	とても楽しみにしています。お友達や先生に会えることが嬉しくて、いつも帰ってくると誰がいたか、何をしたかお話してくれます。	
	18 事業所の支援に満足しているか	12	1	0	0		

188 17 2 27

80%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 年 月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 松戸六高台教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	15	0	スペースを子ども達の特性に合わせて適切に利用。 学習スペースと活動スペースの分離。	定員数の調整をスムーズに行い、最適な環境にする
	2 職員の配置数は適切である	15	0	子供の人数やニーズに応じて調整。	スキルや知識を活かしより効果的にサポート。職員の配置人数が足りないのに児童を受け入れている事がある。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	14	1	教室全体がフラットな空間になっている。 トイレ等。 生活空間を子どもが理解しやすく整え、特性に応じた配慮。	デスクの位置を変えた方がいい。柱で視界がみえてない。 全ての利用者にとって無理なく、安全で快適な場所を提供。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	14	1	職員での定期的な会議の機会を設け、イベント等の企画について話し合うとともに、業務を進めるうえで困っていることや、改善案などを話し合うことができています。 子どもが来ていない午前中にできている。 清潔で心地よい環境で子どもの活動に合わせた配慮。	勤務日数が少ないため、伝達が不十分になってしまう 活動に最適な状態に保ち、心地よい環境を提供。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげてこの自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	15	0	コミュニケーションを大事にしている。	職員全体がアイデアを提案しやすい環境を整える。
	6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13	1		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	11	3	分かりやすくまとめる。 保護者のアンケートによるご意見を参考にしている。	評価結果を活かして業務の質を向上させる。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	15	0	継続的な研修機会に参加。	スキルやモチベーション向上を促進。 受けたい研修を選んで受けられる機会があると良い。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	15	0	客観的なデータ収集をし、評価をしてまとめる。	より有効な支援を提供する。
	10 活動プログラムの立案をチームで行っている	14	1	信頼性の高いツールを使用する。	子どもの特性に適した支援を提供。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	15	0	各職員の知識や経験を活かしている。 意見が偏らないように職員で会議する機会を設け、全員で話し合っってプログラムを決定して	子どもに効果的なプログラムを提供。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	14	0	職員の得意分野をいかにしながら、プログラムが構成されている 職員それぞれの個性や強みを生かし、かつ児童のニーズ・成長に合わせた活動プログラムを展開するよう心がけています。 職員それぞれの得意分野を活かした活動内容。 利用児童の個別支援計画を考慮しながら作成している。	子どもの成長や変化に適した対応を提供。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	14	1	イベントも曜日が偏らないよう配慮し、通所児童皆が参加できるよう考慮している。 休日など公園や施設に遊びに行く工夫はしています。 外出や調理など工夫している。 事前に打ち合わせをして準備している。	夏休みの期間など、毎週どこかに出かけることに関しては多すぎだと思う。 子どものその日の特性や状態を理解して進める。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	13	1	状況やニーズに応じてバランスを大事にしている。	最適な配分を見つける。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	14	0	事前打ち合わせを徹底的に行う。 朝礼、申し送りノート等で共有。	コミュニケーションを大事に、円滑で効果的なサービス提供を目指す。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	5	終業時間が、職員によって異なる為、申し送りなどはノートなどを利用して周知できるようにしている。 お休みしていたとしても引き継ぎノートで共有できるようにしている 全員は難しいが残っている職員間で情報共有。 その日の支援について気づきや共有事項を整理	職員によって、終業時間が異なる為終礼を行えない。それに代わるものを考案中。 パート勤務のため、送迎時に退勤となるので難しい 支援の質の向上させるための改善策を実施。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14	0	気づきや共有事項をまとめる。 他教室の先生方との交流研修で得た情報をもとに、職員の負担が大きくなるよう配慮しながらも、その日の利用児童が行った活動とその評価を記録するシートを作成し、支援の検証に利用しています。	ニーズや経験を踏まえて記録をとる。
	18 定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	14	0	モニタリングをして、適切性を判断している。	柔軟な見直しをする。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	13	0	個々の特徴を捉えて柔軟に支援を行っている。	ガイドラインに基づいた、適切な支援を継続。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	1	専門性の最適な参画。	迅速で効果的な支援を最適化。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	14	0	学校、教室内で情報共有、伝達を行っている。	よりスムーズに提供できるように確認を行う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	10	2	整えているが該当児童はいない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	13	1	情報共有を積極的に行っている。	円滑な移行。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	11	3	支援内容のデータをまとめる。	今まで高等学校での退所がなかったため本年度より取り組む予定 スムーズに移行できるよう丁寧にデータ収集し、整理。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12	2	受けた助言や研修を効果的に実践。	最新の知識と実践を行う。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	10	小学校への送迎の際など。	
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	11	はいにしましたが、分かりません。	
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	15	0	保護者とのコミュニケーションを大事にする。	保護者とのコミュニケーションを図り、子どもの特性を理解し情報共有し合う。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	14	1	個別の対応を大事にしている。	家族全体のサポートを強化し、支援する。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	15	0	丁寧な対応を心がけている。	利用者の理解促進。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	15	0	保護者の気持ちを汲み取って対応。	保護者の心の安定を考慮した対応。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	5	保護者会を企画し、連携を図っている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	15	0	整理し、迅速な対応を心がけている。	より迅速な対応で、安心して利用できるように整える。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	15	0	見やすい会報を発行。	情報共有の強化。
	35	個人情報に十分注意している	15	0	厳格なセキュリティ対策を心がけている。子どもの個人情報についても十分注意が必要だが、自分自身の個人情報についても、必要以上に子どもに話さないように注意している。	安全な情報環境を構築。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をして事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	15	0	円滑なコミュニケーションを大事にしている。	環境を整え、情報伝達を円滑にする。
	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10	5	同ビル内居住者を招き内見していただいている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	13	2	マニュアルを理解し、実践をする。	実践的な訓練。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13	1	年2回の火災、地震防災訓練や不審者防犯訓練を行なっている。 訓練際にはお話を聞く機会を設けたり、学校の避難訓練で学んだ内容を確認したりするようにしています。 避難経路の確認、把握。	月1するべきだともう。 迅速な対応。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	15	0	最新の知識やスキルを身につけ、子どもと接する。	早期発見と対応。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス	15	0	子どもの安全を第一に考え、保護者には共通理解を深める。 対象児童はいないがもしそうなった時にどうするか支援会議で検討している。	保護者との情報共有を大事にする。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	15	0	アレルギーの皆無をよく確認しているが対象児童なし。	アレルギー反応の防止。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	15	0	事例の具体性を意識。	職員全体で協力して安全な環境を築く。